

13. 猪股清天（仙台管区）

山越え気流の形をしたエンジェルエコーについて

（20分）

1969年6月4日に蔵王山系を含む宮城・山形県境付近に晴天乱流（CAT）の一種とみられる波状のエコーが観測された。このときの地上、高層観測によると、エコーは降水粒子から反射されたものと考えられる。エコー高度は3～4 kmであり、反射強度は3 mm/hrに相当する程強いものであった。このエコーの特徴は層の厚さ300～500mのエコーが蔵王山系の風下側で大きく波状にうねっていることであり、山越え気流の一部が観測されたものと考えられる。レーダではほぼ半波長が観測されており、また高層観測の資料からこのときの波長は約40 kmであったとみられる。レーダではさらに小さい波長や乱れが観測された。

14. 柳沢善次、神林慶子（気研・台風）

前線等の通過にともなうエンジェルエコーの特性について（15分）

ミリ波レーダで観測した晴天時のエンジェルエコーの日変化については前にも報告し、発生数・発生高度は日射量・気温等に関係することを示した。

今回は前線・積雲等がレーダ上空を通過するとき、エンジェルエコーの発生数が急速に増加することが観測から得られた。とくに風の変化とは良い関係のあることが明らかになったので、地上で観測した風向、風速、気温、湿度等の変化とエコーの発生数、その他の変化との関係について報告し、下層大気の乱れをレーダによって観測することの可能性について検討する。

海洋と気象のシンポジウムのお知らせ

1. 期 日：昭和46年4月6日9時30分—17時

2. 会 場：気象庁

（東京都千代田区大手町1-3-4）

電話 212-8341（代表）

3. 共催学会：海洋気象学会・日本海洋学会・日本気象学会

4. 内 容：

(1) 9時30分—12時「気象と海洋の長期変動」

(1) 気象と海洋の大循環の数値実験

気象庁電子計算室 新田 尚

(2) 気象と海洋の変動についての解析的研究

気象庁長期予報管理官室 朝倉 正

(3) 海洋の長期変動を中心として

気象研究所海洋研究部

森安 茂雄

(2) 13時—17時「外洋波浪の観測と予報」

(1) 外洋波浪の観測

気象研究所海洋研究部

降旗 常雄

(2) 波浪の発生と発達 東京大学 永田 豊

(3) 波浪予報の実際

神戸商船大学

井上篤次郎

(4) 海上風の予報

気象庁海上気象課

松本 次男

各題目は、それぞれ話題提供30分、質疑応答10分を予定しており、その後に(1)、(2)とも総合討論30分を考えています。

5. 付 記：聴講無料、来聴歓迎